

07-039

産後ケア事業デイサービス集団型
プログラム「新米ママと赤ちゃんの
会」のフィデリティ評価尺度開発

宇野 耕司

日本社会事業大学 社会福祉学部 福祉援助学科

目的

産後ケア事業デイサービス集団型では、助産師等の看護職とともに母親同士が不安や悩みを共有し、仲間づくりを目的とした利用者同士の交流を促す効果的な実践が求められている。本研究の対象となっている「新米ママと赤ちゃんの会」プログラム（定員12名の保育付き4回連続講座）は、産後ケア事業デイサービス集団型（東京都府中市、東久留米市）や地域子育て支援（東京都清瀬市）において公的支援として採用されている。これまで予備的アウトカム評価によってプログラム目標の妥当性が検討された（宇野，2022）。ところが、より効果的なプログラムへと開発するためには、プログラムのアウトカムと関連する効果的援助要素が何かについて検討する必要がある。

そこで、本研究は、「新米ママと赤ちゃんの会」プログラムの効果的援助要素を測定するフィデリティ評価尺度を開発し、プログラムの質向上に貢献することを目的とする。

方法

プログラム評価法の1つであるプログラム理論・エビデンス・実践間の円環的対話による、効果的福祉実践プログラムモデル形成のための評価アプローチ法（CD-TEP評価アプローチ法：An Evaluation Approach of Circular Dialogue between Program Theory, Evidence and Practices）を用いて、プログラム理論（プログラムゴールとインパクト理論）とプロセス理論（組織計画とサービス利用計画）を詳細に記述し、実践家と4回検討会を行い効果的援助要素を抽出した。抽出された効果的援助要素に基づき、フィデリティ評価尺度を開発した。開発の際にプログラム評価の専門家の助言を3回受けた。

結果

効果的援助要素は、「A支援の環境整備連携（例：利用しやすさ、外部の訪問組織への説明）」、「B広報（例：広報計画）」、「Cコースの受付・実施（例：わかりやすさ、信頼関係形成）」、「D保育の説明・提供・フィードバック（例：ねぎらいと笑顔）」、「E情報提供・他機関紹介（例：自主サークル活動に関する不安解消）」の5領域、計83項目で構成された。実践の観点からフィデリティ評価尺度の内容的妥当性を検討した。

考察

本研究で開発したフィデリティ評価尺度を、実践家がプログラムの実施後に使用することで、プログラムの実施プロセスがモニタリングされ、実践の質が担保されると考えられる。今後は、効果的援助要素の実施とプログラムのアウトカム（例：母親の育児不安軽減）との関連性を検証する実証的研究が求められる。

07-040

金沢市における妊婦相談の取り組み
～妊娠期から子育て期までの切れ目の
ない支援の充実に向けて～立田真梨子¹⁾、池守 佳美¹⁾、木澤 俊美¹⁾、
河上 裕美²⁾、金山 学美³⁾、越田 理恵⁴⁾¹⁾金沢市元町福祉健康センター、²⁾金沢市 駅西福祉健康センター、³⁾金沢市 泉野福祉健康センター、⁴⁾金沢市保健所